

患者さんとのコミュニケーションで困ること。 人の話を聴くことが難しい!



本日のKey message

苦しんでいる人は自分の苦しみをわかって くれる人がいるとうれしい。

この言葉は、人生の最終段階にある人への援助に限った話ではありません。

「自分が苦しい時、自分の苦しみをわかってくれる人がいるとうれしい」です。

日常生活において、友人関係、職場関係、夫婦関係、親子関係の中などでも共通する大切なテーマです。

本当に苦しみを聴けていますか?

苦しみに気が付くには感性が必要

人は相手をわかったつもりになった瞬間から 相手の話を聞かなくなります。

そして、自分が良いと思う事を 相手のためになると決めつけてしまいます。

医療・介護従事者に多いブロッキング

- 患者が何を求めているかを把握しないで、 一方的にガイダンスをする。
- 主語は患者さん!!
- 興味や関心のあることには質問したくなる。
- 間違った考えや行動をしていると意見を言ったり怒りたくなる。
- 自分が正しいと思う方向に誘導したくなる。
- 一般的な医学的常識に基づいた思い込みや勝手な**解釈**や **憶測**で話をする。
- 指導的な立場で、上から目線で話をする。
- 医学的・薬学的な価値観を押し付けたくなる。
- 治療への意欲が少ないと思うと話す気がなくなる。

理解するよりも理解者になること

- ① 私が相手を理解しようとする事は大切。
- ② でも、私は相手を100%理解することはできない。
- ③ しかし、相手が私を「自分の理解者」だと思うことは可能性はある。
- ④ 苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい。
- ⑤ どんな私であれば、苦しんでいる相手から見て 「わかってくれる人」になれるか。それは「聴いてくれる私」である。

援助的コミュニケーションとは?

詳しく学びたい方は・・・ エンドオブライフ・ケア協会まで

人生の最終段階(エンドオブライフ)をケアできる 人材育成プログラム







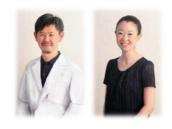


YouTube (東大阪プロジェクト)

Facebook

東大阪プロジェクト チャンネル登録をお願いします!

ぜひ、ご視聴ください♪



ご清聴ありがとうございました。